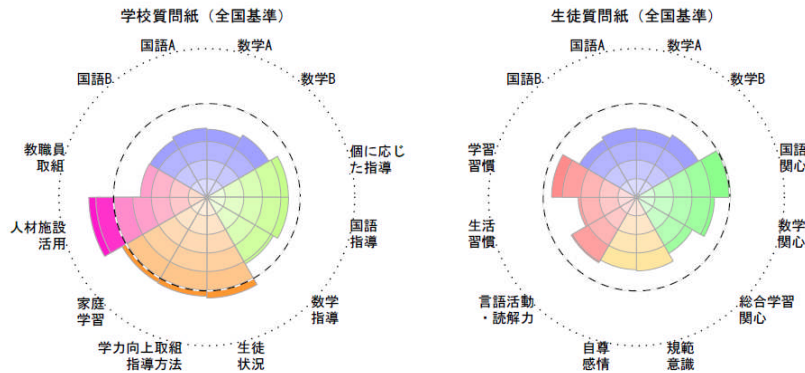


## 1 学力調査等からの実態把握

### (1) 「全国学力・学習状況調査」のプロフィールから



#### ア プロフィールの傾向

生活習慣に課題がある背景から教科学力が低く、学習習慣も身に付いていない。しかし、教科への関心は低くはない。

#### イ プロフィールの診断

##### ○教科学習状況調査

国語・数学ともに教科学力に大きな課題がある。A問題(知識)とB問題(活用)について大きな差はみられない。積み重ねとなる基礎学力の定着が不足。

問題(知識)とB問題(活用)について大きな差はみられない。積み重ねとなる基礎学力の定着が不足。

○**学校質問紙調査** 学力向上に向けた取組や地域人材の活用は全国水準を上回っている。研修を通して教職員のスキルアップが課題となる。

○**生徒質問紙調査** 教科学習の基盤となる生活習慣や学習習慣に大きな課題がある。自尊感情や規範意識を高めながら、同時に生活習慣を見直すアプローチが必要とされる。  
 ・朝食を食べている生徒 67.8%(国 82.2%)  
 ・起床時間朝 7 時前 29.8%(国 66.0%)  
 ・休日の学習時間 1 時間以上 41.3%(国 62.6%)  
 ・普段(月～金曜日)の授業以外での学習時間 1 時間以上 52.8%(国 65.2%)  
 ・普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思うか。42.5%(国 69.7%)  
 ・将来の夢や目標を持っているか。33.3%(国 43.7%)  
・学校で好きな授業があるか。64.4%(国 52.6%)  
・地域行事参加しているか。50.5%(国 38.0%)  
・読書は好き 69.0%(国 67.4%)  
・人の役に立つ人間になりたいと思う 90.8%(国 90.4%)

### (2) 「横浜市学習状況調査」結果から(経年分析)

国語・数学の観点ごとの経年分析結果は、全般的に市の平均通過率よりも下回っている。

国語の「話すこと・聞くこと」では平均通過率が 80%を超え、おおむね内容を聞き取ることができる。「ことばのきまり」では 30%に満たず、「漢字の書き取り」も 50%に満たない。また、「読むこと」は説明文で文章の展開に即して適切な語句を捕らえる点が弱い。定着に向けた支援が必要である。

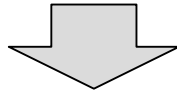
数学の「知識・理解」は通過率 50%前後であるが、「表現・処理」「見方・考え方」では通過率 30%前後と、さらに学習の支援をしていく必要がある。

国語・社会・数学・理科・英語の 5 教科全てが標準化得点の 100 より下回っている。

### (3) 学校の状況・地域の実態

- 在校生の約 8 割の生徒が学区内 3 小学校からの進学である。
- 全般的には落ち着いて授業に取り組んでいるが、学習習慣の定着していない生徒の多いのが課題である。授業に集中できない生徒や欠席が多い生徒も一部に見られる。
- 在校生の約 4 割が外国籍または外国につながる生徒であり、ほとんどが日本語指導の必要な生徒である。
- 地域の方々の学校へ対する関心は高く、好意的かつ協力的である。
- 保護者は学校の教育活動に協力的で理解があるものの、若干の温度差も見受けられる。
- 教職員は、教科指導(授業改善)・生徒理解(生徒指導)についてチームとしてアドバイスをしあっている。今後、組織としての研修をさらに充実させ、授業改善を図っていく必要がある。

## 2 今後の方向



### (1) 最優先課題

- ア. 研修時間を確保し、教職員の授業力・指導力向上を図る。
- イ. 生徒の興味関心を高める授業展開と、自ら学習に取り組む学習習慣の確立にむけた支援
- ウ. 生徒の規範意識とコミュニケーション能力の向上
- エ. 日本語指導の必要な外国籍生徒への教育の充実と国際理解教育の推進

### (2) 学力向上重点目標【中期学校経営方針（平成22年度～24年度）】

- ア. 教職員の授業力・指導力の向上に努め、教科教室の有効活用とともに、TTや少人数指導・繰り返し指導・振り返り指導等の指導体制・指導方法の工夫を図る。
- イ. 生徒理解に努めるとともに、一人ひとりのニーズに対応した指導・支援に努め、「確かな学力」を育む「わかる授業」を実施する。
- ウ. コミュニケーションの基礎となる「あいさつ」運動を伝統的に継続し、全校で推進する。
- エ. 保護者や地域の人的資源の活用と地域教育力の活用を進めながら、外国籍生徒への充実した教育を推進する。

## 3 平成23年度 具体的方策

### (1) 教職員一人ひとりの授業力・指導力向上への取組

#### ア. 授業の質的向上

- ・ **横浜版学習指導要領の確実な実施。**  
全職員が横浜版学習指導要領を理解し、その内容に沿った授業展開を実践する。
- ・ **学習空間を有効活用した教科教室使用の充実。**  
生徒の学習意欲を高めるための掲示物・関連書籍等の環境整備を図り、少人数や習熟度別、グループ学習等の学習形態を模索する。
- ・ **教員、保護者、生徒及び学校関係者による授業評価アンケートの実施。**  
授業の振り返りにより、言語活動充実に向けた授業指導、評価等を構築、生徒との信頼関係の構築。
- ・ **「言語活動サポートブック」の活用。**  
市教委からの指導資料を参考に、全教科で言語活動の取組について検討。
- ・ **「活用」問題の作成と実施。**  
活用型（B問題）問題を全教科で作成、日常・定期試験等で実施。積極的な記述式問題実施。
- ・ **長期休業中の研修会、教科会の充実。**  
授業力・指導力を向上させるための研修会・教科会を充実させて、相互に授業改善を図る。

#### イ. 授業に対する興味関心を高める

- ・ **教育相談日、教科学習相談日の開設・実施**  
学習の方法や進め方、補習等の相談機会を設定し、学習意欲向上の一助とする。
- ・ **個に応じた指導の充実。**  
数学科・理科・英語科で展開している少人数指導を、他教科での実施も模索し、個に応じた指導の充実を図る。生徒の発言を多く拾う。
- ・ **横浜版学習指導要領による課題解決型授業の実施。**  
活動や実験、グループ活動等を通して、思考や表現を問う授業改善。各教科等で生徒の考えや意見を問う場面設定や活動場面の導入。
- ・ **ノート指導を中心とした書く能力の育成。**  
思考の過程が見えるノート指導を行い、自分の考えを織り交ぜながらノートをとろうとする主体的な態度の育成。

## (2) 学校組織としての取組

### ウ. 生徒の規範意識向上と生徒理解の充実

- ・ **全職員による全生徒理解。**

あらゆる機会を通して、生徒理解と迅速な情報交換の徹底を図る。

- ・ **校内行事の充実と、対話による共感的生徒指導の実現。**

三大大行事や宿泊行事の準備運営を活用し、生徒との対話を活発にして生徒理解の充実を図る。

- ・ **「あいさつ」運動の励行と「道徳」授業の推進。**

伝統として継承されている「あいさつ」運動の励行と、道徳と教科の関連を考えた実践。

- ・ **授業見学、校内巡回の推進。**

教職員の授業見学・巡回等を積極的に実施するとともに、公開授業週間を年間5回設定してPTAや地域に開かれた学校運営をする。

- ・ **生徒の社会的スキルの向上。**

学級活動や教科の中で横浜プログラムを実施。生徒の人間形成に関わる社会的スキルの向上を図る。

- ・ **基本的生活習慣の確立。**

保健だよりや学校だより、学級活動、地域懇談会、PTA活動等あらゆる機会を活性して、家庭での生活習慣の改善を図る。早起き・朝食の摂取、TVやゲーム遊びの時間縮減等。

### エ. 外国籍生徒への教育の充実と地域教育力の活用

- ・ **地域人材の活用。**

日本語指導ボランティアの協力を得た国際教室の充実。

- ・ **外部機関との連携。**

横浜国際交流協会（YOKE）や中区国際交流ラウンジとの連携を密にし、セミナーや講座を活用する。

- ・ **職業体験学習の実施、地域行事の参加**

10年以上続いている地域の方々との交流を積極的に展開し、日々の学習に生かす。

### 学力向上アクションプラン検証と授業評価・学校評価

- 評価計画
  - ・ 授業評価（年2回、関係者1回以上）
  - ・ まちとともに歩む学校づくり懇話会（年2回）
  - ・ 学校家庭地域連絡協議会（年2回）